

# 飯伊地区 産業経済動向

No.537 2023/12  
(6.1.25 発行)



IIDA SHINKIN BANK  
飯田信用金庫  
しんきん南信州地域研究所

<https://www.iidashinkin.co.jp/>  
〒395-0044 飯田市本町1-2  
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132



## Contents

表紙	写真：国指定の重要無形民俗文化財 新野の雪祭り（下伊那郡阿南町）	P 1
製造業	景況DIは前月から改善。先行きについては景況感悪化を見込む声が多い	P 2
建設業	12月の公共工事は前年比減少。11月の住宅着工は前年比で約3割減少	P 4
商業・サービス業	景況感はやや悪化。宿泊業で景況感悪化との声が多い	P 5
しんきんリニア・三遠南信対策室です	北陸新幹線越前たけふ駅を巡る状況 ～延伸区間唯一の新駅、期待と不安～	P 6
統計調査から	経済センサスから見る、飯田下伊那地域の民営事業所の状況	P 8
主要経済統計		P 12
飯伊地区全産業景況DIの推移・主要経済指標		P 14

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ（<https://www.iidashinkin.co.jp/>）に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならずともに行っています。



再生紙を  
使用しています

## 地区内製造業の景況判断指数

### 概況 景況DIは前月から改善。一方、先行きについては景況感悪化を見込む声が多い

当月の製造業の業況判断指数（DI）はプラス7.3で、前月から13.6ポイント上昇。翌月予測はマイナス36.6で、前月から23.3ポイント低下。機械製造では景況感に大きな変化がないとの声が多かった一方、食品製造で景況感が好転した事業者が複数あり、製造業全体では当月景況感がプラスに転じた。ただ、先行きの景況感については機械製造を中心に悪化を見込む声が多く、翌月予測の景況感はマイナス幅が拡大した。

#### 主な業種の動き

##### ●電気・精密・光学

- 受注、販売… 販売、受注ともに前月比は業者により増減分かれるが、増加との声は少ない。先行きについても減少を見込むとの声が増加を見込む声よりも多い。
- 景況感…… 当月の景況感は横ばい。先行きは業者により見方が分かれるが、悪化～横ばいとの声が多い。

#### [企業からのコメント]

- ・今年に入りFA事業は下降に転じてきている。一方で、車載事業や民間航空機事業は生産が回復傾向にある。
- ・線材などが長納期化しており、生産への影響が懸念される（半導体不足と同様の影響）。
- ・自動化、ロボット市場の需要は底堅い。デジタル測定機のDX重要も底堅い。
- ・精密機械加工分野もあまり良くない様子との話を聞く。

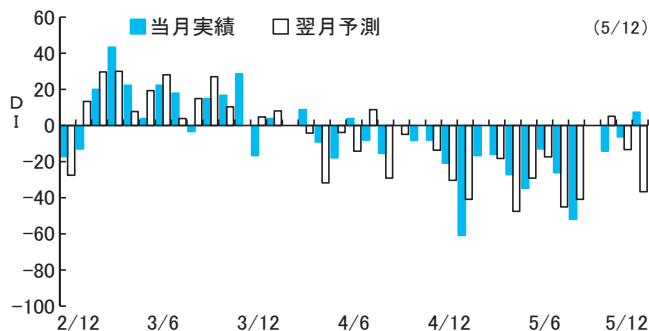
##### ●半導体、液晶製造装置向け機械部品

- 受注、販売… 販売は前月比で減少。受注は横ばい～増加。
- 景況感…… 当月の景況感は大きな変化はないとの声。先行きは、悪化を見込むとの声はやや多い。

#### [企業からのコメント]

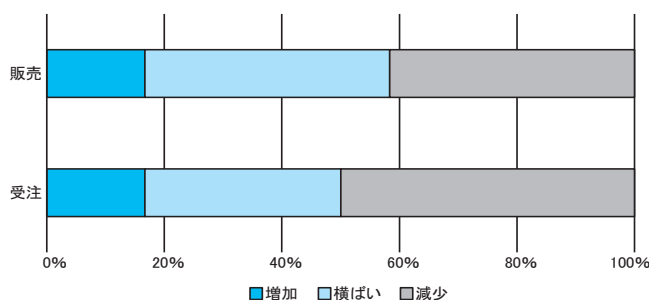
- ・「米国による新たな規制施行前の駆け込み需要が発生してきており、目先の受注残高が積み増しとなってきている。力強さはないが、回復基調となっている」「受注残高は、1月までは大きく変わらない傾向だが、2月以降は減少する見通し。前年度対比では改善しているが、前年1月は非常に悪い時期だったため回復したとは言えない状況」
- ・「世界の半導体売上が1年ぶりに増加に転じた。生成AIなど、新技術を背景に需要が回復し始めている。各分野で成長のバラつきはあるものの、需要回復の兆候が出始めてきているが、実感は少し先になりそう」「半導体業界だけでなく、他業界でも景気の良い話を聞かないとのことであり、当社も同様の傾向。半導体は2023年が回復の年との話だったが、回復しないまま年が明けた。2024年の早いタイミングでの回復を期待したい」「各社、2023年は厳しい年になったが、次期の増産に向けて設備投資や準備を着々と進めている。立ち上がり時期は夏以降と予測していることから、一時帰休を取り入れる企業や開発品の取り込みでしのぐ企業など、方針は様々となっている」
- ・12月までは高止まりと判断していたが、アルミを中心に単価アップとの連絡があった。原材料価格がまた上昇局面に入る可能性を懸念している。

飯伊地区景況DI（製造業）

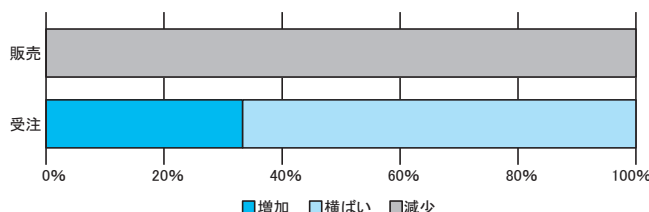


【DI（ディフュージョン・インデックス）】とは…  
 景況に関する投票を指数化したもので、全体の回答数を分母、良い、やや良いとの回答数を分子にした割合から、全体の回答数を分母、悪い、やや悪いとした回答数を分子にした割合を引いた数値。  
 「先月と比べて景況が良い」との回答が多ければプラス、「先月と比べて景況が悪い」との回答が多ければマイナスとなる。

電気・精密・光学向け部品前月比回答割合

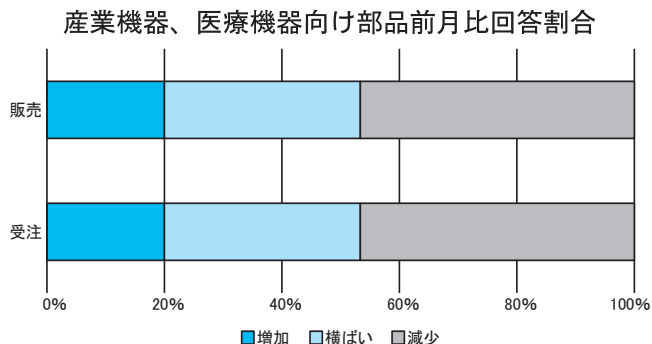


半導体、液晶製造装置向け部品前月比回答割合



●産業機器、医療機器向け等機械部品

- ☑受注、販売… 販売、受注ともに、業者により増減分かれるが、減少との声がやや多い。先行きについても減少との声がやや多い。
- ☑景況感…… 当月の景況感は、好転したとの声と悪化したとの声が拮抗している。一方、次月以降は悪化を見込むとの声が多い。



[企業からのコメント]

- ・「産業機器部品は中国経済の減速とEUの金利上昇による設備投資の抑制等により減速している」「見積単価を下げないと受注できない状況。菓子製造機関連は好調だった」「主力となる製品市場により、明暗がくっきりしているようだ」「半導体の回復は今年の秋との声が多い」「景気の停滞感が強く、物流（受注・販売）が少ない」「2024年も、昨年の低迷とまではいかないまでも、好調とは言えない状況が続くそう」
- ・「自動車業界は全般的に好調だと思うが、年末の不祥事（ダイハツ工業）の影響がどの程度になるか、注視している」「メーカーによる不祥事等の影響がどこまで続くのか今後の業績にも響いてくる」
- ・「コロナ対策の借り入れ返済が始まれば、倒産するところも出てくるのではとの声も出始めている。」

●漬物、半生菓子、菓子原料等

- ☑売 上… 漬物は、前月比はやや増加～増加。菓子は前月比やや増加。景況感については横ばい～やや好転との声。

[企業からのコメント]

- ・「年末の稼働は近年で一番良かった。特に外食や小売店での年末商材の動きが良かった」「年末は売れたが、真冬の閑散期をどう乗り切るか」「例年に比べ、年末商戦と呼べるほどの盛り上がりを感じられない年末だった」「値上げに対して敏感な客層を持つ市場では、売上減少になっているようだ」「震災による景気の悪化を懸念している」
- ・「運送業者の2024年問題の影響を予測しきれていないことを懸念している。」

●水引製品、冠婚葬祭・祝儀用品、正月・盆用品

- ☑売 上 … 前月比、次月以降とも業者により増減分かれる。景況感についても業者により見方が分かれた。

[企業からのコメント]

- ・「年間売上の大半は年末年始の天候・社会情勢により大きく左右される。2024年正月初詣客は予想通り大勢の参拝客で賑わいを見せた。1月1日発生した地震の影響が心配されている十日戎情勢だが、現状では通常通り開催される見込み。」
- ・「地域の生産者が高齢化していて、当社への依頼が年々増えてきている。」
- ・「正月飾の販売は昨年よりやや良好。祝儀商品は、全般的に数量は減少したが、値上げした効果があった。」

●上記以外の製造業

- ☑食品製造 …………… 販売は、前月比では業者により増減分かれ、先行きはやや減少という。
- ☑建築用金属製品 … 販売は前月比減少、前年比では増加。景況感は横ばいという。
- ☑自動車向け部品 … 販売は前月比では業者により増減分かれる。
- ☑印 刷 …………… 販売は前月比ではやや増加、前年比では業者により増減分かれる。

[企業からのコメント]

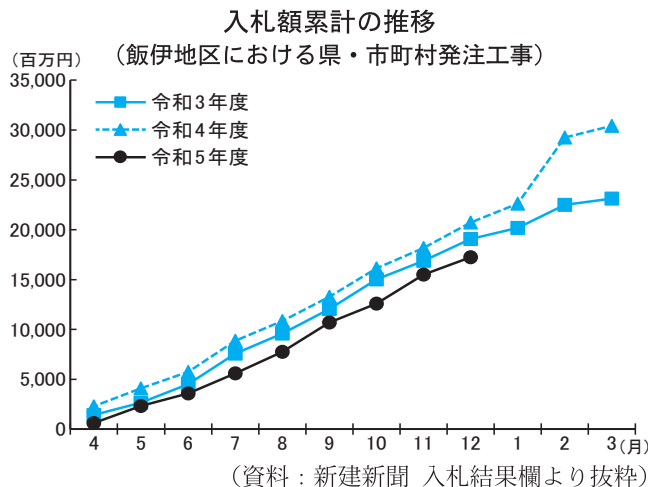
- ・「例年であれば正月に向け嗜好食料品の受注が上がる時期だが、想定していた受注量に達せず、値上げに対する節約意識の高まりを感じている。」
- ・「現場のゼネコン職員および作業員の人材不足等により、どの物件も進捗が遅れ気味。」
- ・「年末・初売りチラシ等が減少。安値のネット印刷に流れる傾向あり。年賀じまいの個人・企業が増えており、年賀印刷も減少」「シール印刷は、12月後半はあまり伸びない傾向はある」「一般商業印刷はだいぶ戻してきたが、コロナ前の8～9割といったところ」「今秋のハガキの値上げにより、年賀状は大幅に減っていくと思われる。定型の郵送料も値上げとなれば封筒の印刷も減り、更なる電子化の波が恐怖となる」
- ・「営業および設計が不足。今後、少しずつ増員していく」「補充のための求人を実施。今後も継続していく」「人員不足が続いている。継続して求人中」

# 建設業

## 官公需

概況 12月の公共工事入札金額は前年比で31.4%減少、一昨年比でも21.8%の減少

- ☑公共工事入札額… 当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約17.0億円（1月15日調査時点）。前年に比べ31.4%減少、2年前との比較では21.8%減少。
- ☑受注残高…………… 前月比は当月、先行きともに業者により増減分かれる。景況感は大きな変化はないとの声が多い。
- ☑原材料価格…………… 前月比は横ばい～上昇で、下降したとの声はない。先行きも、上昇を見込むとの声が依然として多い。



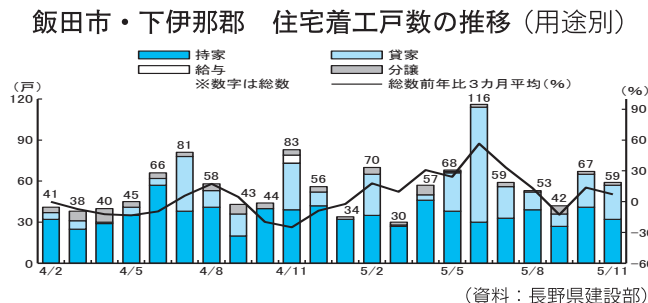
### [企業からのコメント]

- ・「工事発注量が減少気味。災害復旧工事は小口の工事が多い」「全体的には工事は少ない感じがする。4月以降は補正予算の工事に期待」「通常公共工事の発注と、国土強靱化対策の橋梁等の補修工事の発注・受注が進んでいる」
- ・生コン、骨材ともに上昇しているが、設計単価が追いついていない。
- ・現場管理職、技能職とも相変わらず人材不足。重機やダンプ等の納車は発注後、1～2年待ちが当たり前になっている。値上がりも続いているため、契約のバックオーダーをかなり抱えているようだ。
- ・能登半島地震により、公共工事予算が被災地へ集中し、当地区の予算確保が難しくなるかもしれない。

## 民需

概況 令和5年11月の住宅着工戸数は59戸で前年比29%減。  
持家、貸家ともに減少し、2か月ぶりに前年比マイナス

- ☑住宅着工戸数… 当地区の11月の住宅着工戸数は59戸。前月比12%減、前年比でも29%減。持家の戸数は32件（前年39件）、貸家が25件（前年34件）でともに減少。分譲は2件で、前年（4件）から減少した。
- ☑原材料価格…………… 前月比では概ね横ばいとの回答が多いが、一部には上昇との声も聞かれた。



### [企業からのコメント]

- ・「建築は住宅着工件数が減ってはいるが、リフォーム等細かい仕事があるようだ」「リフォーム等、2～3か月先からの仕事が少ない。建築は住宅を含めて仕事は少なく感じる」
- ・「ケーブル、電線の入荷がストップ、または入荷が難しくなり、建設工事の進捗状況に影響し始めている。今後の受注や施工に不安を感じる」「電線が不足している様子。物がなくて工事ができないとの声も聞く」
- ・工事単価は上昇したまま高止まりとなっている。

## 建設資材等

概況 12月の生コン・骨材の前月比売上はやや増加～増加。  
前年比は生コンは業者により増減分かれ、骨材はやや増加

- ☑生コン … 売上は前月比は増加。前年比は業者により増減分かれる。
- ☑骨 材 … 売上は前月比、前年比ともやや増加～増加。

### [企業からのコメント]

- ・当月の生コンの主な出荷は、リニア関連工事、三遠南信工事、砂防堰堤・護岸工事、バイパス工事に関わるものだった。リニア関連工事の出荷量は、当月出荷量全体の約4割弱。
- ・「リニア、三遠南信向け骨材出荷が増えてきた」「遅れていたリニア天竜川の橋梁基礎の生コン打設が再開し、生コンへの骨材出荷がそれなりにあった」「三遠南信小嵐トンネル工事も非常駐車帯を残すのみとなり、生コン出荷も落ち着いてしまった」
- ・売上が増加すると生産を増やさなくてはならず、人手不足になりつつある。

## 商業・サービス業

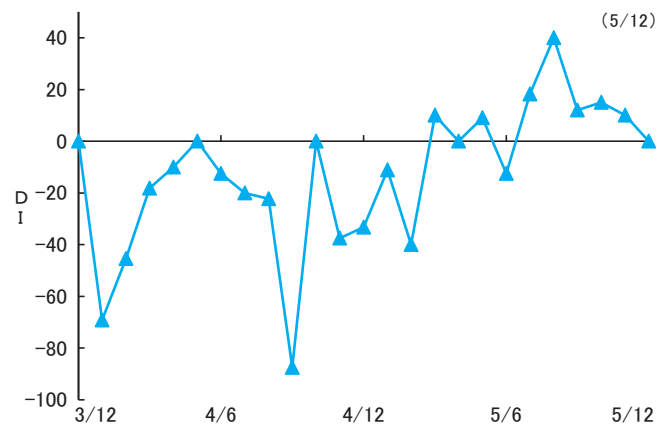
概況 景況感はやや悪化。宿泊業で景況感悪化との声が多い

当月の商業・サービス業の業況判断指数（D I）は0.0で、前月から10.0ポイント低下。

小売業では景況感に大きな変化はなかったが、卸売業では食品卸や菓子卸などで景況感好転との声が聞かれた。飲食業では、年末を迎え売上は昨年比で増加との声が多く、景況感も一部に好転との声があった。一方、宿泊業では昨年実施された全国旅行支援が終了した影響で、昨年比で売上が減少したとの声が多く、景況感が悪化したとの声も多く聞かれた。

人手不足との声は幅広い業種から聞かれ、一部の飲食業、宿泊業からは客数を制限せざるをえない状況との声が聞かれた。

商業・サービスD I



### 主な業種の動き

●小売業 概況 売上は前月比では横ばい～増加、前年比では増加との声が多い

☑売上 … 前月比は横ばい～増加。景況感については、大きな変化はないとの声が多い。

#### [企業からのコメント]

- ・客単価、客数とも増加して売上は順調に推移した。特に青果部門と食肉部門の動きが良かった。
- ・例年以上の寒さもあり、需要は安定。仕入価格の上昇も現状は落ち着き傾向。地元業界も、商品券需要で安定している模様。
- ・DXなどが話題となっているが、実際に適用している企業などはまだまだ少ない気がする。先んじているとか遅れているという観点ではなく、必要か否かで対応する必要性を感じる。

●卸売業 概況 売上は前月比は業者により増減分かれるが、増加との声が多い

☑売上 … 食肉の売上は前月比減少。食品、菓子、電設資材は前月比でやや増加～増加。

#### [企業からのコメント]

- ・野菜は、7割を超える品目が昨年よりは高めの価格で、特に玉ねぎ、長芋、ねぎ、レタスは3～7割高。野菜全体では入荷量増、価格高となり、荷動きはコロナ前に戻った感じがする。果実は、主力の市田柿は入荷量が少なく価格は前年並み、いちごも需要期の12月下旬の寒波により極端な品薄で高値、りんごは全国的に少なく5割高、みかんもやや高く、昨年より主力品目で価格高となった。
- ・売上面では、補助金を軸とした再エネ関連商材（空調設備、LED照明等）が好調。季節商品は例年通り。仕入面では、先月に続いて高圧ケーブル不足から低圧ケーブルにも波及した「品不足・納期未定・受注停止」が非常に痛手。工期・納期延長にかかる利益面での圧迫が、今後気がかりな点である。
- ・輸入品を中心に仕入単価が上昇しているが、仕入単価が低い時期の在庫があり効果的に活用したい。

●飲食・宿泊・運輸業 概況 飲食業の売上は前月比横ばい～やや増加。宿泊業では減少～やや減少。宿泊業で景況感悪化との声が多い

☑売上 … 飲食業は前月比横ばい～やや増加、前年比ではやや増加～増加。宿泊業では前月比、前年比とも減少との声が多い。運輸業は前月比、前年比とも増加。

#### [企業からのコメント]

- ・「年末の忘年会が多く、コロナからの回復を一層感じることができた。ただ原材料の高止まりで思うようにはならない」「客単価も来店数も減っている。間違いなく物価上昇が響いている。お酒の注文が少ない」「人手不足が売上増を阻む最大の原因かもしれない。宴会等のニーズは伸びているので、もったいない話だ」
- ・「昨年は全国旅行支援の補助金が12月の売上に貢献していたが、首都圏や主要観光都市を除くと前年比では全国的に厳しい月となった」「全国旅行支援が終わり、12月の売上は大きくダウン。この冬場の集客が心配」「年ごとに忘年会を行う企業が減少している。他店に流れているのか、それとも以前のような大人数での忘年会が減ったのか、動きの検証も大事だと思う」「12月の忘年会予約が減少も、1月の新年会へ振替する先が目立った」「年末年始の1週間を過ぎたら客足が遠のいてきた。1月は数日の休館を設定している」「いつもの12月に比べ低調。新年に入っても予約が少ない状況」
- ・タクシー需要は徐々に戻ってくるのではないかと。年末の繁忙期、週末の需要に対応できないときがあり、人員の確保が急務。
- ・インバウンドを呼び込むべき、との声は出ても、なかなか仕組みづくりが進まない。

# 北陸新幹線越前たけふ駅を巡る状況

## ～ 延伸区間唯一の新駅、期待と不安～

本年3月16日に北陸新幹線金沢～敦賀間が開通する。福井県内には4駅が設置されるが、唯一の新設駅となる越前たけふ駅（越前市）を訪問した。

### 1. 田圃の中の駅

北陸自動車道武生ICで降りて前の道路を左折するとほぼ1～2分で越前たけふ駅に到着する。駅は越前市役所やJR北陸本線武生駅など市中心部から直線距離で約3kmのところ設置される新設駅になる。

越前市は、平成17年武生市・今立町が合併して「越前市」となる。福井県は福井市を中心とした越前の国（嶺北）と敦賀市を中心とした若狭の国（嶺南）からなるが、その嶺北の南部2市（越前、鯖江）3町（越前、南越前、池田）域を丹南地区という。またの名を南越地区ともいい、新幹線計画時、当駅の仮称は「南越駅」だった。

丹南地区の人口は令和2年10月時点で181千人。南越駅（仮称）計画で開業時の駅勢圏人口は142千人、計画基礎となる駅利用者は2,000人/日と設定されている。

### 2. 早くも駅前広場が活況呈す

新幹線駅舎には立ち入れないので完成したばかりの近代的な外観を見るだけだが、既に新幹線車両が試運転（1日最大21往復）しており、ホームに発着しているのが見られる。

駅前広場は面積4.8千㎡、バス5台355㎡、タクシー発着・プール135㎡5台、一般車（短時間駐車）33台を有する。広場に続く部分には「交流促進の起点」として「道の駅越前たけふ」がある。北陸自動車道、国道8号からの好アクセスや丹南地域の中心に位置することから「広域交通拠点」「広域交流の起点」「防災機能」を期待された造りとしている。

道の駅駐車場は大型車23台、小型車88台の6千㎡。建物内は新幹線の待合室を兼ねた来訪者の交流スペースといった感じのホールがあり、「開通まであと65日」という電光カウントダウンボードが置いてある。

並んで物産販売兼飲食の建物。物産販売所は地元の食を前面に打ち出し「かみが美味しい道の駅」がキャッチコピー。立ち寄ったときは丁度越前ガニをポイルしており、通路に向けて盛大に蒸気を噴き出し辺りにカニの香りが充満している。他にも海の幸・山の幸を豊富に陳列。飲食ゾーンには6店があるほか海鮮バーベキュー店舗が2店ある。

訪れたのは平日の正午だったが、駐車場は1/3程度埋まり、地元の人らしいご夫婦連れなどが代わる代わる入ってくる。土日祝日は家族連れで賑わうのでは、と感じた。

このように、新幹線が開通する前に駅周辺の賑わいをつくり出すのはとても大事と感じた。リニア長野県駅（仮称）は、周辺整備が完了しても全体の状況からリニア新幹線が走らない期間がある程度ありそうだ。リニアが走らなくても当駅周辺が賑わうにはどのようなハード・ソフトづくりをするか、地域で考えていきたい。

駅裏（駅東）はパークアンドライド駐車場で18千㎡、600台の駐車場。向かいには里山が迫り、周辺の田圃と併せ北陸の原風景が見られる。



越前たけふ駅

越前市主要施設の位置関係



「北陸新幹線南越駅周辺整備基本計画」（越前市HP）



道の駅物産販売所



越前たけふ駅舎（中央）とバス・タクシー乗り場（左）道の駅（右）

### 3. 二次交通の状況

既に高速バスが駅前広場のバス停を発着している。このバスは福井県と名古屋を結び、名鉄バスセンター、JR名古屋駅から県内の敦賀IC、越前たけふ駅、鯖江IC、福井駅東口に停車（うち1本は土日あわら湯のまち駅まで延長）。1日10往復を福鉄バスとJR東海バスで共同運行する。

北陸新幹線が開通すると、名古屋方面と越前市・福井市との行き来はこれまでの「特急しらさぎ」（名古屋→米原→金沢）で1本が敦賀駅での乗換えが生じ、時間短縮効果は若干あるものの料金が上がる。乗り換えなしで名古屋・福井間を移動できる利便性と低料金が相俟って高速バス利用者が増えるのではとも考えられた。注目したい。

他方で、越前たけふ駅と市中心部との二次交通は、対応いただいたバスセンター職員によると「武生駅方面へ1時間に1本程度繋ぐ路線バスができるように聞いているが正式発表はない」とのことだった。

### 4. 新設駅設置決定経緯と駅周辺の開発方針

越前市役所を訪ね聞き取りを行った。まず新幹線駅位置決定の経緯についてであるが、面談した市職員からは「私が小中学生の頃から新幹線のルートはこの辺りと聞いていた」とのこと。在来線駅併設といった地元要望はどうだったのかと思うが、北陸新幹線建設期成同盟会のHPに、「昭和62（1987）年 芦原温泉・南越前環境影響評価実施のための駅・ルート発表」とあり、正にこの頃までに様々折衝がなされ、結果現在の駅位置に決定されたと考えざるを得ない。

駅周辺は都市計画区域だが用途地域の指定がないいわゆる白地地区。一面の田圃で圃場整備が行われて大部分が農振農用地となっている。市では平成30年に駅周辺整備対象区域を特定用途制限地域に指定して建築物の建築を制限。この間地域住民の意見を集約してまちづくり計画を進め、「無秩序な開発を抑制し（中略）広域交流及び連携拠点にふさわしい広域高次都市機能をもつ市街地を形成し、かつ、保全することを目標とする」ため地区計画（都市計画法第12条五）を決定。土地利用方針として「賑わいの創出や地域活性化に寄与する商業・業務・産業機能や交流機能等を導入」（地区計画書）としている。具体的には「民間活力の導入がカギ」（同市）とのことだった。

### 5. 利用者数への不安と、進められる駅周辺での開発事業

冒頭に記したが当駅の基礎数値は駅勢圏人口142千人、利用者数（乗車人数）2,000人だが、在来線で武生駅から福井駅へ約20分、敦賀駅へ30分程度での位置にあり、速達列車「かがやき」に乗るため丹南地区から両駅に流れて越前たけふ駅の利用は振るわないのでは、と心配する声があるという。

昨年12月発表された北陸新幹線敦賀延伸時のダイヤでは、当駅に「かがやき」が1日2往復停車する。同じ北陸新幹線新高岡駅の当初1日1往復、その後週末のみの停車、に比べ良いスタートといえるが、当駅の発着時刻は上りが6時台と20時台、下りが7時台と21時台。日中の「かがやき」は通過してしまう。これがどう影響するか。

利用者数について、この駅の将来に関わる重要な事業を目にすることになった。新幹線駅と道の駅の向かいの元は田圃の広大な敷地に研究開発施設の建設が行われている。開発者は㈱福井村田製作所。敷地面積5.5ha、建築延べ面積40千㎡の「セラミックコンデンサ研究開発センター」で、「研究開発に特化した最先端の環境を整備することでよりハイレベルな研究開発業務および技術者の育成を図」とともに「商品開発から量産にいたるまで、生産プロセス全体におけるモノづくり力の強化を目指す」という（同社HP）。

市中心部と離れて低調な利用で推移するか、それとも真新しいキャンパスで奔放に画を描くように、新幹線駅を核としたホットスポットになるか。同じく新駅を抱える当地域と対比しながら、今後のこの地域の変貌を見ていきたい。



本年NHK大河ドラマの紫式部は父の赴任に伴い都を出てこの地で暮らしたと伝えられ、駅前工事現場のフェンスにもキャンペーンが



北陸本線武生駅

北陸新幹線 列車別停車パターン

列車名	本数(往復)	敦賀	越前たけふ	福井	芦原温泉	加賀温泉	小松	金沢	...	東京
かがやき	5	○		○				○		○
	2	○	○	○			○	○		○
はくたか	2	○		○	○	○		○		○
	5	○	○	○	○	○	○	○		○
停車回数(往復)	14	14	7	14	7	7	7			

つるぎ	本数(往復)	敦賀	越前たけふ	福井	芦原温泉	加賀温泉	小松	金沢	新高岡	富山
各駅停車タイプ	13	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3	○	○	○	○	○	○	○		
速達タイプ	5	○		○					○	○
	4	○		○				○		
停車回数(往復)	25	25	16	25	16	16	16	25	18	18

(JR西日本HP「2024年春のダイヤ改正について」)



越前たけふ駅前の開発現場 右が越前たけふ駅

(飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平)

# 経済センサスから見る、飯田下伊那地域の民営事業所の状況

我が国における事業所、企業の経済活動の状態を明らかにし、包括的な産業構造を明らかにすることを目的とする経済センサスの、令和3年活動調査の結果が順次公表されている。

今回は、経済センサスによって、飯田下伊那地域の民営事業所の状況の推移をご紹介します。

## 1. 平成21年から令和3年の、飯田下伊那地域の事業所数と、開・廃業率の推移

(1) まず、平成21年から令和3年の、飯田下伊那地域の事業所数と、開・廃業率の推移を見る。

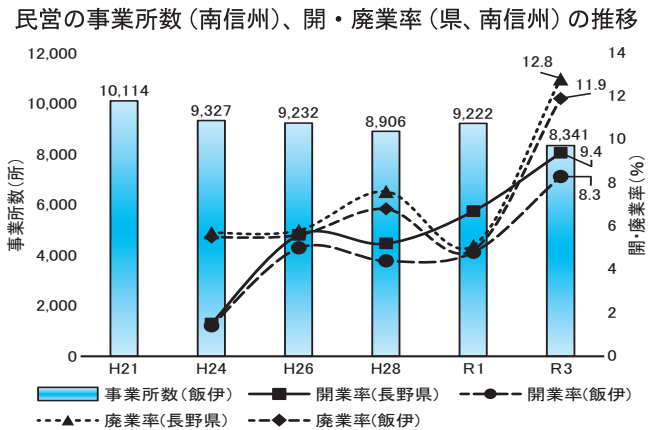
平成21年以降、飯田下伊那地域の事業所数は趨勢的に減少しているが、特にコロナ禍をまたぐ令和元年、3年間の減少率は9.6%で、各経済センサス間での減少率が最も高くなっている。

この間の飯田下伊那地域の廃業率を見ると、11.9%となっている。県計よりも0.9ポイント低いものの、やはり平成24年以降で最も高かった。

一方、この間の開業率は、県計で9.4%、飯田下伊那地域は8.3%となっており、開業率も平成24年以降で最も高くなっていることが注目される。

飯田下伊那地域に限らず、コロナ禍をまたぐ令和元年

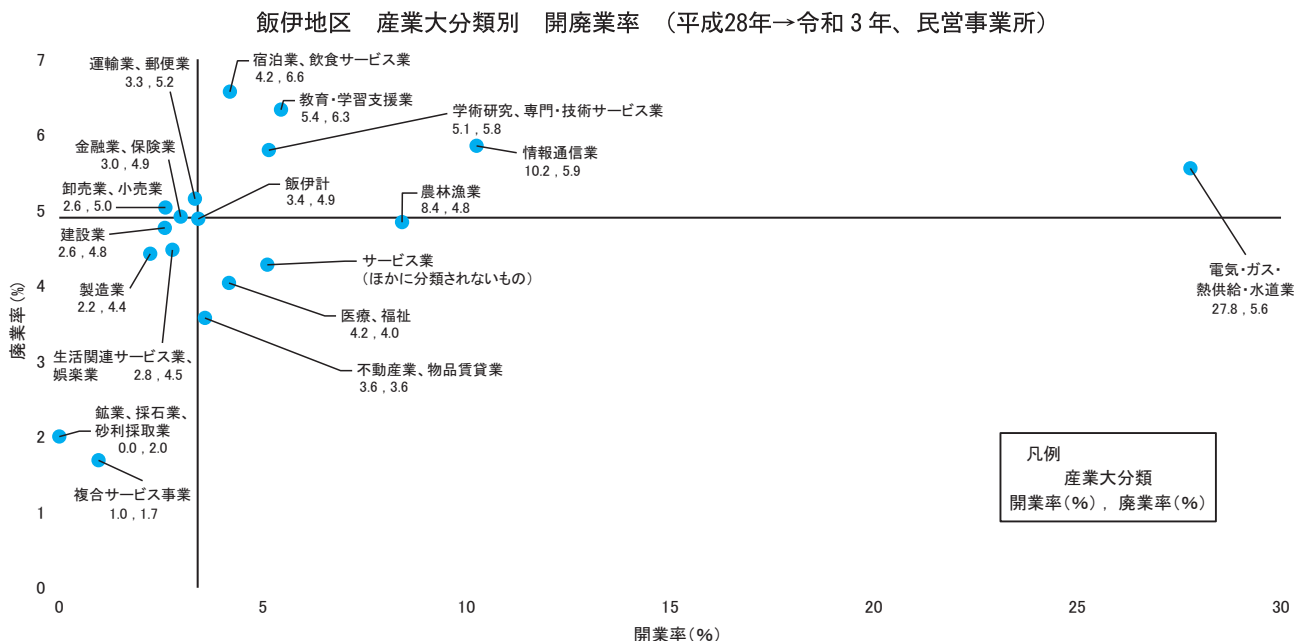
から3年までの間、廃業率も高かったが、開業率もまた高く、事業所の新陳代謝が激しかった様子がうかがえる。



(資料：経済センサス)

## 2. 平成28年から令和3年の、飯田下伊那地域の、産業大分類別の開・廃業率

それでは、飯田下伊那地域の民営事業所の新陳代謝は、業種によって何か特徴があるだろうか。平成28年調査から令和3年調査の間の飯伊地区の開廃業率を、産業大分類別に見てみる。



(資料：経済センサス)

上図は、飯伊計を交点にして縦軸に廃業率、横軸に開業率をとったものだが、開、廃業が比較的多いと言われる宿泊業、飲食サービス業は、飯田下伊那地域でも、開業率、廃業率共に飯田下伊那平均よりも高く、新陳代謝が激しかったといえるだろう。



また、電気、ガス、熱供給、水道業や情報通信業でも、開業率、廃業率共に飯田下伊那平均よりも高い。前者は、事業所数が少ないことの影響も考えられるが、恐らく太陽光発電事業者等の開、廃業によるものと思われる、環境意識の高まりや情報化といった社会の変化への適応がみられるように思われる。

一方、飯田下伊那で産業規模の大きい製造業、建設業、卸・小売業や、金融業・保険業などでは、開業率、廃業率共に飯田下伊那平均よりも低く、新陳代謝はさほど大きくなかったように思われる。

### 3. 平成28年から令和3年の、飯田下伊那地域の、産業大分類別事業所数、従業者数の変化

上記のような新陳代謝の結果、平成28年から令和3年の間に、事業所数、従業者数がどのように変化したかを見る。

平成28年、令和3年 産業大分類別 事業所数、従業者数の増減（民営・南信州地域）

産業中分類	事業所数		従業者数		事業所数 増減率	従業者数 増減率	1事業所あたり 従業者数		産業中分類	事業所数		従業者数		事業所数 増減率	従業者数 増減率	1事業所あたり 従業者数	
	H28	R3	H28	R3			H28	R3		H28	R3	H28	R3			H28	R3
農業、林業	104	119	1039	978	14.4%	-5.9%	10.0	8.2	不動産業、物品賃貸業	545	544	1356	1565	-0.2%	15.4%	2.5	2.9
漁業	3	2	41	16	-33.3%	-61.0%	13.7	8.0	学術研究、専門・技術サービス業	341	334	1566	1554	-2.1%	-0.8%	4.6	4.7
鉱業、採石業、砂利採取業	11	12	50	51	9.1%	2.0%	4.5	4.3	宿泊業、飲食サービス業	1157	1047	6434	5311	-9.5%	-17.5%	5.6	5.1
建設業	1138	1016	6995	6672	-10.7%	-4.6%	6.1	6.6	生活関連サービス業、娯楽業	753	700	3166	2565	-7.0%	-19.0%	4.2	3.7
製造業	1002	884	17181	17060	-11.8%	-0.7%	17.1	19.3	教育、学習支援業	200	191	1018	957	-4.5%	-6.0%	5.1	5.0
電気・ガス・熱供給・水道業	19	47	322	466	147.4%	44.7%	16.9	9.9	医療、福祉	655	659	9728	10151	0.6%	4.3%	14.9	15.4
情報通信業	48	57	309	321	18.8%	3.9%	6.4	5.6	複合サービス事業	86	85	844	849	-1.2%	0.6%	9.8	10.0
運輸業、郵便業	144	132	2757	2825	-8.3%	2.5%	19.1	21.4	サービス業(他に分類されないもの)	545	569	3536	3836	4.4%	8.5%	6.5	6.7
卸売業、小売業	2027	1828	12505	12547	-9.8%	0.3%	6.2	6.9	総計	8906	8341	70154	68967	-6.3%	-1.7%	7.9	8.3
金融業、保険業	128	115	1307	1243	-10.2%	-4.9%	10.2	10.8									

(資料：経済センサス)

全業種でみると、令和3年は、平成28年に比べ、事業所数で6.3%、従業者数は1.7%減少している。

開、廃業率がともに飯田下伊那計より低かった業種のうち、建設業、金融業・保険業では、事業所数、従業者数ともに減少、製造業、卸、小売業では、事業所数こそ10%前後減少しているものの、従業者数はほぼ横ばいだった。製造業では、一事業所当たり従業員数が2.2人増加している。ある事業所が廃業しても、次の事業者がその従業員を雇用すれば、従業者数はさほど減少しない。一概には言えないが、製造業では従業員の移動が順調に行われた可能性も考えられるのではないだろうか。

開、廃業率がともに飯田下伊那計より高かった業種のうち、情報通信業や、電気・ガス・熱供給・水道業では、事業所数、従業者数ともに増加しているものの、一事業所当たり従業者数は減少している。

宿泊業、飲食サービス業は、事業所数、従業者数、一事業所当たり従業者数すべて減少した。この点は、令和元年経済センサスで業種別の事業所数、従業者数が明らかではないこともあって断言できないが、コロナ禍の影響が考えられるかもしれない。

高齢化が進む当地域の医療、福祉でも、事業所数はほぼ横ばいだったが、従業者数は4.3%増加していた。とはいえ、一事業所当たり従業者数の増加は1人に満たない。

### 4. 平成28年から令和3年の、飯田下伊那地域の、市町村別・産業大分類別事業所数、従業者数の変化

平成28年から令和3年間の事業所数、従業者数の変化を、各市町村別に見たのが次頁表で、事業所数は、高森町はほぼ横ばいだったが、それ以外の市町村は減少している。一方、従業者数は、松川町、高森町、阿南町、喬木村、豊丘村、大鹿村で増えていた。

大鹿村では建設業の従業者数の増加がみられ、リニア中央新幹線南アルプストンネル長野工区工事の影響と思われる。

製造業について、松川町、高森町、売木村、泰阜村、喬木村、豊丘村で、従業者数の増加が見られる。高森町、売木村については、事業所数も増加している。

医療、福祉では、飯田市、阿智村、根羽村、泰阜村で、事業所数、従業者数ともに増加しているほか、阿南町など、事業所数は減少ないし横ばいだが、従業者数が増加した自治体は多い。



卸小売業について見ると、松川町、高森町、平谷村、下條村、喬木村、豊丘村で従業員数の増加が見られる。

右図は長野県商圏調査による南信地区各市町村の地元滞留率、吸引力係数について、令和3年度調査におけるそれぞれの値と、前回平成30年度調査時からのそれぞれの増減を示したものである。

同図表で、地元滞留率とは、居住する地元市町村（平成15年8月31日現在の旧市町村単位）内で主に買物をする世帯の割合（％）のことを指し、吸引力係数とは、居住人口に対する吸引人口（※）の百分比であり、数値が大きいほど地元滞留率並びに他市町村からの流入人口の割合が高いことを示す。

これを見ると、飯田市では、地元滞留率は前回調査よりも増加したものの、吸引力係数は前回調査よりも低下している。

他方、高森町、豊丘村では、地元滞留率、吸引力係数ともに前回調査よりも上昇していた。

高森町では令和2年11月20日に、アピタ高森店がMEGAドン・キホーテ高森店として新装開店し、豊丘村では平成30年春、道の駅「南信州とよおかマルシェ」がオープンし、農産物直売所のほか地元農産物を活用した農産物加工所、テイクアウト、農家レストランや、日用品が揃う物産販売所を併設するとともに、地域間を結ぶコミュニティバスの発着点となっており、地域の生活を支える拠点として、道の駅を核とした「小さな拠点」を形成している。これら町村の卸、小売業の就業人口の増加に影響したのかもしれない。

（※）吸引人口＝地元滞留人口＋流入人口。なお、地元滞留人口＝居住人口×地元滞留率。流入人口は、その市町村に吸引されている各市町村について、居住人口に吸引率を乗じ、それらを合算したものの。なお、商圏調査ではインターネットなど通信販売は考慮されていない。

### 5. 飯田下伊那地域の、令和3年の事業所数からみた産業構造

最後に、令和3年経済センサス活動調査による、飯田下伊那地域の事業所数の産業別構成比をみる。

建設業、製造業、卸・小売、宿泊・飲食サービスの事業所構成比が二桁を超えているが、建設業や製造業の構成比は、長野県、全国に比べてやや高い。

また、開業率が高かった電気・ガス・熱供給・水道業は、地域内の事業所構成比はさほどではないが、全国、長野県に比べると高い構成比となっている。

同じく開業率が高かった情報通信業だが、全国、長野県に比べると構成比が高いとは言えない状況となっている。

産業大分類別 事業所構成比（令和3年）

事業所数	農林漁業	鉱業、採石業、砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業	金融業、保険業
全国	0.8%	0.0%	9.4%	8.0%	0.2%	1.5%	2.5%	23.8%	1.6%
長野県	1.4%	0.1%	10.7%	9.8%	0.3%	1.0%	1.9%	22.8%	1.5%
飯田下伊那計	1.5%	0.1%	12.2%	10.6%	0.6%	0.7%	1.6%	21.9%	1.4%
事業所数	不動産業、物品賃貸業	学術研究、専門・技術サービス業	宿泊業、飲食サービス業	生活関連サービス業、娯楽業	教育、学習支援業	医療、福祉	複合サービス事業	サービス業（他に分類されないもの）	
全国	7.3%	4.9%	11.6%	8.4%	3.2%	9.0%	0.6%	7.2%	
長野県	6.7%	4.2%	13.7%	8.2%	2.8%	7.4%	0.9%	6.7%	
飯田下伊那計	6.5%	4.0%	12.6%	8.4%	2.3%	7.9%	1.0%	6.8%	

（資料：経済センサス）

（しんきん南信州地域研究所 中村 達）

（4）南信地区（図116、図117、図118）

図116 地元滞留率と増減（南信地区）《全品目平均》

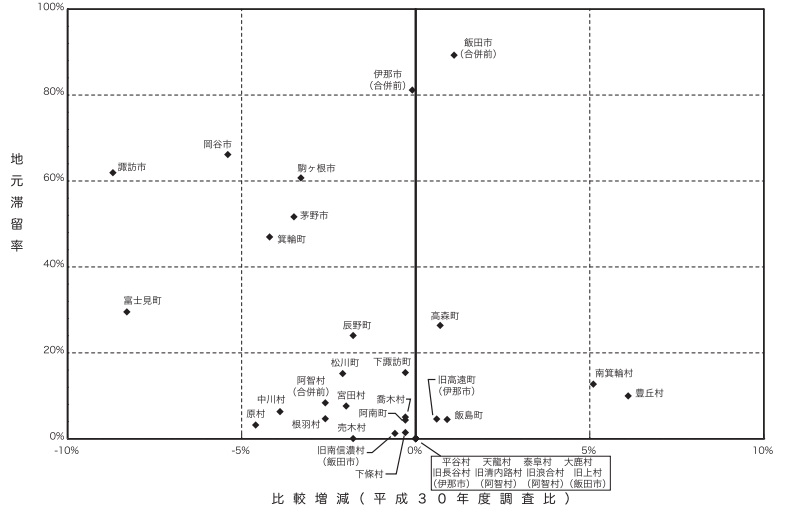
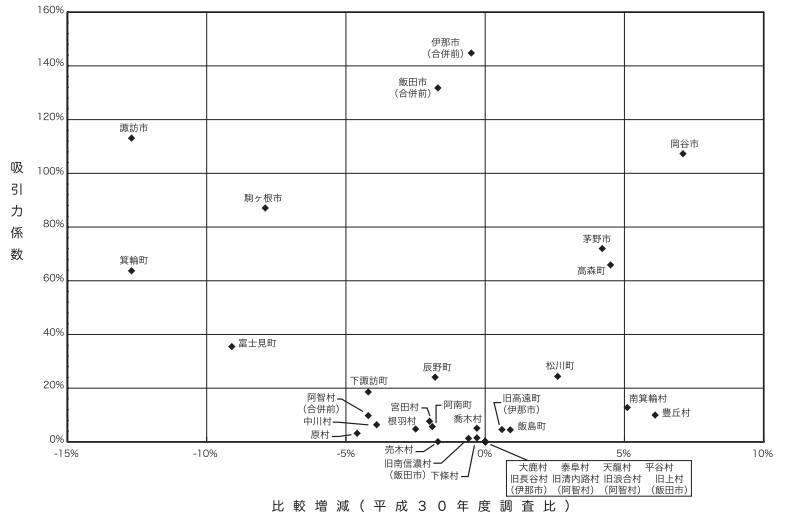


図117 吸引力係数と増減（南信地区）《全品目平均》



# 主要経済統計

項目 年月	住宅着工戸数		高速バス乗車人数							
	飯伊地区		飯田～新宿		飯田～名古屋		飯田～長野		伊那・駒ヶ根～新宿	
	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比
	戸	%	人	%	人	%	人	%	人	%
平成29年	705	11.2	327,875	0.5	218,764	4.8	115,698	△ 0.1	—	—
30	637	△ 9.6	327,033	△ 0.3	219,979	0.6	112,882	△ 2.4	—	—
令和元	710	11.5	326,056	△ 0.3	226,581	3.0	108,454	△ 3.9	263,821	—
2	771	8.6	102,394	△ 68.6	85,747	△ 62.2	49,063	△ 54.8	71,390	△ 72.9
3	686	△ 11.0	90,496	△ 11.6	77,895	△ 9.2	39,668	△ 19.1	53,800	△ 24.6
4	638	△ 7.0	163,493	80.7	118,343	51.9	40,389	1.8	117,160	117.8
令和4.10	44	△ 40.5	17,146	66.4	12,047	48.1	4,017	2.5	12,519	82.4
11	83	10.7	15,975	23.1	11,313	11.7	3,456	△ 11.5	11,151	54.7
12	56	3.7	19,134	19.8	12,259	7.9	3,268	△ 15.9	13,162	33.9
令和5.1	34	△ 20.9	18,488	67.5	11,653	49.3	3,480	21.8	12,580	66.8
2	70	70.7	14,973	182.8	10,935	111.0	2,954	45.5	11,534	162.4
3	30	△ 21.1	22,085	104.0	14,931	64.7	3,913	24.9	17,595	123.7
4	57	42.5	17,876	65.1	13,060	43.4	4,146	22.8	14,374	69.4
5	68	51.1	21,773	52.6	13,651	34.5	4,307	12.1	16,889	76.1
6	116	75.8	23,884	94.6	11,801	17.3	4,469	△ 1.8	14,081	63.1
7	59	△ 27.2	20,682	46.9	13,603	30.3	3,994	12.1	17,270	75.8
8	53	△ 8.6	28,298	57.4	16,649	51.3	3,959	32.2	21,905	70.1
9	42	△ 2.3	20,383	39.1	13,654	37.8	3,957	19.7	17,445	57.0
10	67	52.3	21,063	22.8	14,222	18.1	4,265	6.2	17,812	42.3
11	59	△ 28.9	20,799	30.2	14,242	25.9	3,986	15.3	16,438	47.4
12	—	—	22,851	19.4	13,925	13.6	3,645	11.5	17,443	32.5
資料出所	長野県建設部住宅課		信南交通株式会社							

項目 年月	自動車新規登録台数 (松本自動車検査登録事務所管内)				軽自動車新規登録台数 (全国軽自動車協会連合会)			
	新車		中古車		新車		中古車	
	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比
	台	%	台	%	台	%	台	%
平成29年	27,349	△ 1.4	7,274	△ 2.1	48,951	5.6	11,773	9.7
30	27,525	0.6	7,352	1.1	50,960	4.1	11,577	△ 1.7
令和元	29,312	6.5	8,548	16.3	51,498	1.1	12,069	4.2
2	26,002	△ 11.3	8,674	1.5	47,551	△ 7.7	12,591	4.3
3	24,672	△ 5.1	8,716	0.5	44,333	△ 6.8	12,880	2.3
4	22,564	△ 8.5	8,133	△ 6.7	44,005	△ 0.7	12,455	△ 3.3
令和4.10	1,928	18.4	648	△ 11.2	4,100	36.1	920	△ 7.8
11	2,014	1.8	621	△ 10.4	4,179	16.6	861	△ 8.1
12	1,818	△ 6.3	625	△ 6.3	3,600	8.6	800	△ 12.8
令和5.1	1,852	5.0	428	△ 18.3	3,967	23.2	809	3.2
2	2,110	18.4	559	△ 10.8	4,266	15.6	866	6.0
3	3,758	25.3	875	△ 1.4	5,453	13.3	1,124	△ 2.5
4	1,941	18.2	730	△ 2.7	3,630	8.3	1,775	△ 0.5
5	1,852	34.9	666	△ 0.9	3,131	17.5	1,196	△ 1.2
6	2,215	36.3	771	△ 1.9	3,581	△ 0.7	1,240	4.2
7	2,121	14.4	700	△ 5.3	3,409	△ 8.9	997	△ 3.9
8	1,840	9.3	682	10.2	3,365	13.5	901	△ 2.1
9	2,388	14.7	662	4.3	4,416	8.3	962	△ 1.6
10	2,210	14.6	736	13.6	4,081	△ 0.5	988	7.4
11	2,314	14.9	713	14.8	4,200	0.5	917	6.5
12	1,936	6.5	718	14.9	—	—	—	—
資料出所	長野運輸支局松本自動車検査登録事務所				一般社団法人全国軽自動車協会連合会長野事務所			

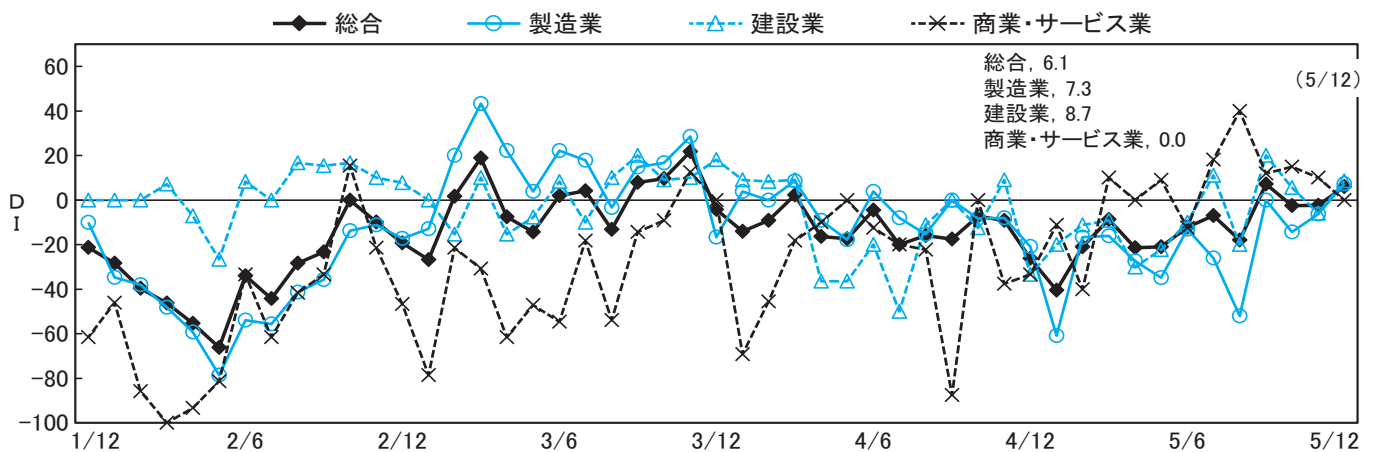
項目 年月	有効求人倍率			倒産件数 (負債額1千万円以上)		信用保証承諾 (飯田支所管内)	
	長野県	飯田管内		長野県内	飯伊地区	新規保証	前年比
	季節調整値 (但、年平均は実数)	パート含む実数	パート除く実数				
	倍	倍	倍	件	件	件	%
平成29年	1.60	—	—	81	10	1,914	△ 4.5
30	1.69	—	—	93	20	1,815	△ 5.2
令和元	1.60	—	—	79	8	1,842	1.5
2	1.16	—	—	80	8	3,707	101.2
3	1.33	—	—	66	9	1,799	△ 51.5
4	1.54	—	—	70	9	1,446	△ 19.6
令和4.10	1.58	1.74	1.97	6	0	112	△ 5.9
11	1.60	1.72	1.97	6	3	131	24.8
12	1.59	1.70	1.92	6	0	172	△ 4.4
令和5.1	1.57	1.60	1.83	6	0	121	53.2
2	1.51	1.64	1.80	4	1	128	15.3
3	1.51	1.63	1.73	8	1	172	9.6
4	1.48	1.51	1.77	4	0	125	42.0
5	1.47	1.47	1.73	6	0	121	14.2
6	1.44	1.56	1.79	4	0	144	12.5
7	1.43	1.58	1.77	7	2	131	20.2
8	1.44	1.56	1.82	10	1	118	16.8
9	1.45	1.53	1.79	7	1	168	10.5
10	1.41	1.55	1.78	9	0	149	33.0
11	1.38	1.52	1.75	3	1	150	14.5
12	—	—	—	5	1	142	△ 17.4
資料出所	長野労働局・ハローワーク飯田			南信州地域振興局商工観光課		長野県信用保証協会飯田支店	

※数値は発表者によって予告なく改定されることがあります。

項目 年月	中央道利用台数 (インターチェンジ出入合計)									
	飯田 I C		松川 I C		園原 I C		山本 I C		座光寺 S I C	
	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比
	台	%	台	%	台	%	台	%	台	%
平成29年	2,759,316	0.1	1,865,085	2.5	368,243	△ 2.0	1,018,661	△ 0.4	—	—
30	2,765,376	0.2	1,871,062	0.3	423,828	15.1	1,017,497	△ 0.1	—	—
令和元	2,741,865	△ 0.9	1,836,395	△ 1.9	405,661	△ 4.3	1,015,783	△ 0.2	—	—
2	2,191,489	△ 20.1	1,539,468	△ 16.2	330,231	△ 18.6	849,805	△ 16.3	—	—
3	2,069,577	△ 5.6	1,334,516	△ 13.3	328,892	△ 0.4	896,142	5.5	—	—
4	2,192,851	6.0	1,331,034	△ 0.3	380,886	15.8	1,045,343	16.6	799,207	—
令和4.10	207,360	6.1	135,216	4.3	46,350	22.6	112,633	17.8	76,961	19.1
11	195,360	△ 3.4	132,249	△ 6.1	39,520	△ 0.6	104,663	5.4	71,555	7.9
12	188,584	△ 1.2	114,095	△ 2.4	22,558	△ 2.7	78,696	1.7	69,552	9.8
令和5.1	168,796	7.9	96,345	8.4	23,687	4.8	68,121	5.3	65,568	23.6
2	162,177	16.6	89,851	13.3	21,709	6.5	66,664	13.4	61,569	27.8
3	202,791	11.6	115,990	9.3	25,652	13.5	89,892	16.7	77,315	20.5
4	188,707	7.0	109,237	4.8	54,801	32.2	100,893	10.8	73,053	12.1
5	198,593	4.4	112,401	2.0	29,940	△ 14.1	98,271	6.2	77,275	12.1
6	185,229	△ 0.6	112,432	△ 0.3	23,657	△ 10.1	91,355	9.8	73,695	△ 0.6
7	204,517	7.8	121,664	8.0	33,101	△ 5.6	104,621	17.7	79,978	14.5
8	210,379	10.2	127,431	9.0	34,287	△ 4.7	107,905	9.4	80,031	16.8
9	201,388	5.5	125,935	6.4	29,683	△ 10.6	98,469	4.2	78,741	13.9
10	209,245	0.9	136,392	0.9	38,804	△ 16.3	112,661	0.0	81,020	5.3
11	207,256	6.1	136,602	3.3	29,333	△ 25.8	120,986	15.6	80,404	12.4
12	191,669	1.6	113,350	△ 0.7	20,708	△ 8.2	83,821	6.5	76,118	9.4
資料出所	中日本高速道路(株)名古屋支社飯田保全サービスセンター									

# 飯伊地区全産業景況DIの推移

飯伊地区景況DI (本誌調査)



## 飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数	前月比	前年同月比	前々年同月比	令和元年同月比
倒産件数 (負債総額1千万円以上)	県内	5件	(前月 3件)	(前年同月 6件)	(前々年同月 4件)	(令和元年同月 10件)
	飯伊	1件	(前月 1件)	(前年同月 0件)	(前々年同月 1件)	(令和元年同月 0件)
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数) (11月)		59戸	△ 11.9 %	△ 28.9 %	△ 21.3 %	△ 39.8 %
有効求人倍率 (パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内) (11月)		1.52倍	(前月 1.55倍)	(前年同月 1.72倍)	(前々年同月 1.48倍)	(令和元年同月 1.41倍)
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	1,936台	△ 16.3 %	6.5 %	△ 0.2 %	△ 3.7 %
	中古車	718台	0.7 %	14.9 %	7.6 %	8.8 %
軽自動車新規登録台数 (全国軽自動車協会連合会) (11月)	新車	4,200台	2.9 %	0.5 %	17.2 %	4.1 %
	中古車	917台	△ 7.2 %	6.5 %	△ 2.1 %	△ 2.1 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	94,432台	△ 8.0 %	1.5 %	0.0 %	△ 13.8 %
	出	97,237台	△ 7.0 %	1.7 %	0.8 %	△ 14.0 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	56,965台	△ 16.2 %	△ 1.9 %	△ 3.2 %	△ 25.4 %
	出	56,385台	△ 17.8 %	0.6 %	△ 3.0 %	△ 25.4 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	10,560台	△ 48.3 %	△ 4.2 %	△ 8.2 %	△ 23.3 %
	出	10,148台	13.9 %	△ 12.1 %	△ 13.0 %	△ 26.1 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	41,524台	△ 27.5 %	6.0 %	7.8 %	6.1 %
	出	42,297台	△ 33.6 %	7.0 %	8.7 %	7.6 %
中央道利用台数 (座光寺スマートインター分)	入	38,571台	△ 6.3 %	9.8 %	- %	- %
	出	37,547台	△ 4.3 %	9.0 %	- %	- %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		142件	△ 5.3 %	△ 17.4 %	△ 21.1 %	△ 31.4 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		2件	(前月 1件)	(前年同月 8件)	(前々年同月 0件)	(令和元年同月 2件)
高速バス乗車人数	飯田～新宿	22,851人	9.9 %	19.4 %	43.1 %	△ 20.2 %
	飯田～名古屋	13,925人	△ 2.2 %	13.6 %	22.6 %	△ 25.0 %
	飯田～長野	3,645人	△ 8.6 %	11.5 %	△ 6.2 %	△ 53.9 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	17,443人	6.1 %	32.5 %	77.5 %	△ 22.8 %
市内循環バス乗車人数	左回り	3,076人	15.7 %	3.0 %	△ 1.4 %	△ 18.0 %
	右回り	2,968人	12.0 %	2.7 %	△ 0.6 %	△ 23.5 %